

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2024.12 vol.224

脳血栓回収 300 例

詰まってしまった脳の太い血管に対してカテーテルで詰まった血栓を回収する、血栓回収療法を2014年から当院で開始しました。高齢化の影響もあり血栓回収療法の実施数は年々増加傾向で、10年後の現在、鹿児島医療センターで通算300例の治療を実施しました。血栓溶解療法（rt-PA静注療法）とともに脳梗塞発症早期でしか実施できず、かつ早く治療するほど効果が出やすい治療のため、院内外の多職種の方の協力が欠かせません。迅速な対応に感謝いたします。

この治療の対象になる方は脳梗塞の範囲が広く、重い麻痺や意識障害などの症状が出て運ばれてくる方がほとんどです。しかし血栓回収療法により症状が改善し歩いて退院される方もおり、治療し甲斐があると感じています。私はまだ血管内治療の駆け出しの身ではありますが、現在も新しい発見や器具が次々に出ている分野であり、今後も治療に生かせるよう研鑽してまいります。

最善の治療を行うためには症状が出た後の早急な受診が欠かせません。皆様もご自身やご家族で脳卒中を疑うような症状（片方の顔、手足の麻痺、ろれつが回りにくい、受け答えができないなど）がある際はすぐに救急受診してください。救急隊や近隣病院、院内スタッフの皆様も今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

（文責：脳血管内科 川畑 裕太郎）



第11回 心臓・血管病市民公開講座

鹿児島医療センター 心臓・血管病市民公開講座はコロナの影響で中止が続いておりましたが、このほど5年ぶりに、センテラス天文館で令和6年11月2日(土)に開催されました。

大雨の直後、さらにおはら祭りの前夜祭の日にも関わらず、当院に通院されている患者さんを含め231人の方にご参加いただきました。

今回は、『心臓突然死から大切な人を救うために』というテーマで、講演とパネルディスカッションが行われました。

田中 康博院長より、「救える命を必ず救おう」と熱のこもった挨拶で会はスタートしました。

講演1は、私、不整脈治療科の二宮が「心臓突然死とは」のタイトルで、心臓突然死の原因となる心臓病の種類とそれぞれの心臓病に対する適切な治療の重要性、当院で行える最新の心臓病治療について話をさせていただきました。

講演2は、JNP 伊藤 由加看護師より「大切な命を守る技術～心肺蘇生法～」のタイトルで、万が一の際の心肺蘇生法について動画を交えながらわかりやすくお話いただきました。

講演3は、循環器内科の茶園 秀人医師より「重症な患者さんの症例報告」のタイトルで、当院に救急搬送され、最新の心臓病治療を駆使し、元気でご自宅に退院された患者さんの報告をしていただきました。

講演4は、心不全療養指導士の森 菜海看護師より「患者さんへの生活指導」のタイトルで、心臓病となった際の禁煙の方法とその重要性、服薬や食事管理、日常生活の注意点について看護師さんならではの視点でお話いただきました。

講演後は、循環器内科部長 片岡 哲郎医師と看護師長 福迫 直美看護師の司会で、事前にいただいたご質問に対して、講演者が回答するパネルディスカッションが行われました。そして、多くの問題を抱えた患者さんに、包括的に診療にあたる必要があることを改めて認識しました。

閉会は、循環器内科主任部長 園田 正浩医師より、「患者さんに頼られる病院になってゆきます。」との結びの挨拶で終了しました。

ご聴講いただいた方の中には、熱心にメモを取る姿が見受けられ、心臓病への関心の高さを肌で感じる事ができました。

事前の打ち合わせから、当日の会場設営や配布資料の準備まで、サポートいただきました当院の医師、看護師、事務の方々には、この場をお借りして御礼申し上げます。

尚、アンケートで多くのご質問をいただいております、当院のホームページ上で回答させていただいております。

今後も毎年、開催する予定ですので、より多くの方にご参加いただけるよう内容の充実に努めて参ります。今後ともよろしくお願いいたします。

(文責：不整脈治療科 二宮 雄一)



職場紹介

【栄養管理室】

栄養管理室は、管理栄養士7名、調理師・調理員15名、委託スタッフを含めると30名以上所属しており、業務内容は、『給食管理業務』と『臨床栄養業務』に大別されます。

『給食管理業務』は、医師の指示に基づき、管理栄養士が治療食をはじめとする献立を作成します。一般食の献立作成にあたっては、5年毎に改訂される『日本人の食事摂取基準』を基に院内食事箋の見直しを行っており、制約がある中でも『安全で美味しい食事』の提供を目標に、スタッフ一丸となって取り組んでいます。

近年では食塩目標量が引き下げとなりましたが、患者さまにより美味しく召し上がっていただけの食事提供に努めています。



『臨床栄養業務』の中では、特にNST(nutrition support team：栄養サポートチーム)業務に力を入れております。活動日は毎週水曜日で、カンファレンス及び回診を行っています。医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、管理栄養士等多職種で連携を図り、栄養アセスメント、栄養プランの検討、モニタリング、評価を継続し、栄養改善を図っています。静脈栄養や経腸栄養の提案、あるいは、自宅退院を見据え再現性のある栄養補助食品等を含めた栄養プランの提案を心がけています。

今年度、診療報酬の改定に伴い、入院時栄養スクリーニングを見直しました。現在、低栄養診断基準・アセスメントツールである『GLIM基準』の導入に向けた準備をしています。今後も、より良い栄養管理のために、更に多職種と連携を強化し、継続した取り組みをおこなって参ります。

(文責：主任栄養士 中之園 妙子)



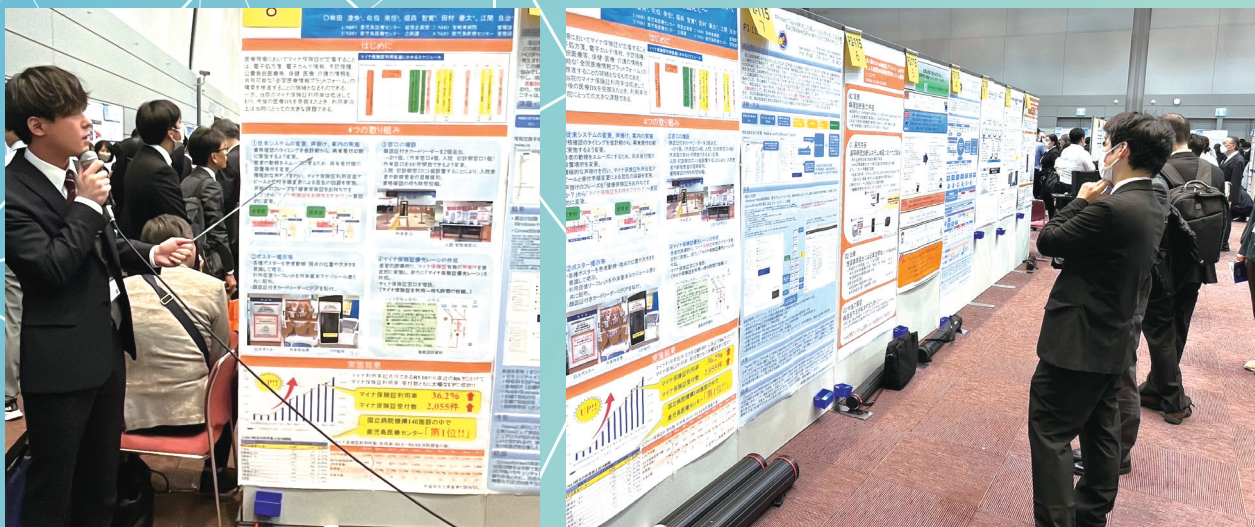


第78回 国立病院総合医学会に参加して

令和6年10月18～19日にグランキューブ大阪で開催された、第78回国立病院総合医学会に参加しました。私は今回初めて国立病院総合医学会に参加させていただき、2日目の午前に緊張しながらポスター発表をしました。テーマは「マイナ保険証利用促進のための取り組みについて～医療DXを見据えて～」ということで、当院での主に4つの取り組みやその結果について報告をしました。令和6年8月時点、国立病院機構全体のマイナ保険証利用率は14.8%のところ、当院では47.7%と高い利用率であるため大変興味を示していただき、ありがたいことにたくさんの質問もいただきました。また、令和6年9月時点の利用率は、52.3%と50%を超え、国立病院機構140病院の中で1位となっております。医事のメンバーと協力してマイナ保険証利用促進に取り組んだかいがあり、関係者の皆様には感謝しかありません。

本学会は他部門の医療従事者が参加しており、一般演題、ポスター発表、シンポジウムなど他部門についてもいろいろと知ることができる絶好の場でした。また、国立病院機構だけでこれほどの人数が集まることに、国立病院機構のネットワークのすごさに驚かされました。他病院での取り組みはとても勉強になり、当院でも生かせるようなことがあり非常に有意義な時間となりました。

(文責：経営企画係長 有田 凌央)



■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

メディカルサポートセンター

地域連携室専用FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

